

## 活躍する NPO法人

21



「ほっとスペース」の昼食風景

# 「ほっと」する子育て支援ひろば —ふらっとスペース金剛

南海電車「金剛」駅から徒歩5分位の団地のそばにNPO法人「ふらっとスペース金剛」(岡本聡子代表理事)があります。

転勤族、核家族であった岡本代表は、知人がいない環境で孤立した子育てのしんどさを実感しました。そして大阪に戻ってから、仲間のお母さんたちとともに2年前、民家を借りて「地域の子育てひろば」を作りました。

いつでも「ふらっと」気軽に立ち寄り、親とスタッフがflat(水平)な立場で支援しあう場所でありたい、という思いが、名前にこめられています。親が子どもから少し離れて、一息ついてお茶を飲める「ほっとスペース」を週3回開いています。開設当時は子育て支

援のためのメニューを考えてもい

ましたが、親が本  
当に望んでいるの  
は「居場所」、「安  
心してしゃべれる  
場所」と実感し、  
予約はいろいろな  
決まったスケジュ  
ールはない、指導  
はしない、細かい  
規則はもうけな  
いようにしていま  
す。聴くことに徹  
し、あえてアドバ  
イスはしません。

虐待防止のため

さまざまな取り組みが始まっていますが、岡本代表は「監視的になり、強引に介入するのは危険では」と懸念します。数値で判断され、指導や評価をされる不安から保健所へ行きたがらない親のもとへ、無理に入り込もうとすれば、「北風と太陽のように扉を閉ぎすのではないか」と心配し、「さりげなく見守り、待つ姿勢を貫くことが大切」と強調します。「訪問指導を強めるよりも、子育てにしんどさを感じる親が気軽に立ち寄り、ほっとできる居場所をいっぱい広げていきたい」と話します。

介護は嫁の仕事、子育ては母の仕事というプレッシャーが強い地域もまだまだあり、知らない地域に行かないとゆつくりお茶を飲めない人もいるため、「校区内外に関わらず通える子育てサロンがほしい」と提案しています。

子どもと密着していた母親が、子どもと少し距離を取れ、次の子どもを生む心の余裕ができ、現在妊娠中の人が3人います。また、「ほっと」から生まれた新しいニーズ、「保育」や「託児つき講座」にも取り組んでいます。

運営や保育にかかわるスタッフ学生を含むボランティアが60人と、90組の親子が登録しています。

問合せ〓ふらっとスペース金剛

TEL・FAX 0721・29・

5227